

第1回(令和 5 年度) 認知症施策に関する意見交換会「MEET☆ミーティング」

開催日時： 令和 5 年 9 月 24 日(日)13 時 30 分～15 時 30 分

場所： 富田林市きらめき創造館(Topic)2 階グループ活動室A, B

●参加メンバー

市民（6 名）
若年性認知症のご本人とご家族
高齢の認知症のご本人とご家族
認知症の家族の介護経験者 2 名
関係機関（5 名）
医師（認知症サポート医）
認知症共同生活介護事業者(グループホーム) 管理者
居宅介護支援事業所(ケアマネジャー) 代表
第2圏域地域包括支援センター 社会福祉士
第3圏域地域包括支援センター 看護師
事業者（3 名）
府営住宅指定管理者 管理センター長
生活協同組合(職員、組合員理事)
地域組織（2 名）
認知症ケアを推進する会「おれんじパートナー」代表
民生児童委員協議会 会長
市（5 名）
富田林市長
健康推進部次長 兼 高齢介護課長
高齢介護課長代理
高齢介護課 認知症地域支援推進員 保健師
第1圏域地域包括支援センター 主任ケアマネジャー

●内容

1)参加メンバーの紹介

2)MEET☆ミーティングの趣旨説明、 ルールの説明

趣旨： 認知症に関する施策を、メンバーの意見により評価したり、認知症施策の進捗状況を確認して今後も前向きに進めていけるよう話し合うこと

ルール： この会で知り得た個人情報や意見などを、不用意に外部に出すことのないようお願いします。
すべての参加者が安心して発言できるようご協力ください。

3)事前アンケートの結果の説明と意見交換（配布資料あり）

- ①認知症についての普及啓発が進んできていると感じますか？ 15 名中「はい」が 8 名
- ②認知症に関係することで、困りごとや課題だと感じる事
- ③認知症に関係することで、取組みの提案や希望する制度

・【認知症サポート医】

「物忘れが増えた、今後どうしたらよいか」といった相談の外来診療が増えた。

また、レカネマブという認知症初期の認知症薬が承認されることから薬の質問が増えた。

糖尿病や高血圧などの生活習慣病のある人の認知症の心配についての受診が増えたように思う。

・【認知症ケアを推進する会】

「認知症にだけはなりたくない」という声をよく聞く。昔ながらの考えが定着しているので(偏見を)消すのは難しいと感じる。

・【高齢の認知症のご本人】

私は自分でお化粧もするし、お洋服も自分で選ぶからそんなに認知症だと思っていない。足し算、掛け算、割り算何でもできる。

【ご家族】

週6日のデイサービスに通っているが、すごく楽しんで行っていたデイサービスに行けなくなって感情のコントロールができなくなった。夜中に起きたり化粧をしたり、リズムが狂って、家にいたらめ事が多くなる。認知症の方に対応できるスタッフを育てることが急務だと思う。

【グループホーム】

グループホームの入所者はすべて認知症の方。ひとりひとりに対応するために職員は勉強している。今、富田林のグループホームは 7 件あるが、満床。需要はすごくあるが、どこも職員不足。まず来ていただかないと育成もできないですね(苦笑)。

・【若年性認知症の方のご家族】

働き盛りで若年性認知症になって、子どももいる、住宅ローンもある、で負担が大きい。働くところもなく、居場所もない。B 型作業所には行くが賃金が安い。最近は道路を渡るのも危なくなって送迎が必要になった。介護にかかる費用も負担になるし、おむつの支給など65歳以上にしかない制度も多い。若年性認知症への支援も考えてもらいたい。若年性の方が富田林にももっといると思う。大阪市内ではなく、富田林や南河内に若年性の方が集まれるところが欲しい。

・【公営住宅管理会社】

年 1 回の収入申告の書類を提出することのできない人がいると、包括や社協に連絡して手助けしてもらっている。そんな方々が認知症かどうかは我々にはわからない。今後もより密な協力、連携をお願いしたい。

・【地域包括支援センター】

物忘れが少しあるという程度では、生活に困りごとは生じず、生活が不便というくらい。支援も必要としない人が多く、手続きができない等、症状が進行してから相談される人が多い。もっと早い段階から医療機関を含めさまざまな機関が情報交換できたらいいと思う。個人情報であるということ以前に、ご本人の意思が大きく影響する。困りに困っているわけではない段階での、初期の普及啓発が不足してい

るのだと感じる。

・【ケアマネジャー】

独居の方が手続き等ができなくなるとたちまち生活が成り立たなくなる。手続きや受診の付き添いをケアマネが業務の範囲を超えてすることになることもある。また、ご本人と別居のご家族の意向が一致しない場合のサービス利用の調整などに苦慮している。

・【介護経験者】

父母ともに認知症だと認めたくなくて、感情をむき出しに暴力沙汰の喧嘩をしていた。今は父は亡くなり、母は施設に入所しているが、コロナ禍で面会に制限があり、久しぶりに会いに行ってもぼーっとしている。が、面会に来た家族が帰ったあとに母の気持ちが不安定になることもあるので悩ましい。

・【民生委員】

施設に入所した時に、他の入所者に暴力をふるうので縛っても(抑制しても)よいかと聞かれ、結局家族が仕事を辞めて自宅で介護することにした話を聞いた。家でその人に向き合って介護することで症状が落ち着き、最期は自宅で看取った。

今、夫が認知症の高齢夫婦が近所にいるが、行政や介護保険に頼ることを声かけても自分で頑張ろうとしてしまう妻に対してどう支援したらよいのか悩み、今は、見守ることしかできていない状態。

・【介護経験者】

近所に顔見知りがいるということがとても大切だと思う。災害の時にも大事なこと。知り合いがいる中で親睦を深めて一緒に食事をしたり、子ども達と遊んだりできる場所がたくさんあればいいと思う。運動が必要だし、外出を好むため、外によく出ていたが、過ごす場所がなくて困った。1 日中過ごせるような場所が欲しい。

・【生活協同組合】

個別配達が増加。様子が気になる人がいれば、登録している家族に連絡することができる。家族が遠方のことも多くすぐに対処できないことも多い。

組合員活動の中で各地域の委員会として認知症サポーター養成講座を開催(コロナ禍前)していた。楽しい講座を開催するなどして、認知症が、子どもたちから理解できるものになればいいと思う。身近な地域で支える場所、交流の場として、組合員活動として地域のネットワークを駆使しながら一緒に支えていきたい。

・【民生委員】

小学校の近くのグループホームに小学生がお勉強に行き、包括が認知症サポーター養成講座を開催する取り組みを 10 年以上行っていた。コロナで中止になっているのでまた再開してもらいたい。

金剛地区に開設した虹色サロンは、午前だけで 15 人～20 人が訪れる。この中には少し気になる人もいる。何も催しがなくてもここに来て話せることがよいと言う人が多い。ボランティアの人たちの居場所にもなりつつある。コロナが落ち着いたら、飲食可にして昼食もみんなで食べたい。

・【介護経験者】

近所の人に、認知症であるということについて、福祉用具の業者さんが「隠してたらだめですよ、みんなに言いましょう」と言ってくれてハッとした。隠すものではない。ひとりで見てたらしんどいのでみんなに助けてもらおう。みんなに知ってもらおう。ということが一番だと思った。

・【高齢の認知症のご本人】

60代になってから富田林に引っ越したのでお友達もいなくて、あまりご近所でも交流はない。

【ご家族】

私も知り合いがいなかったが、認知症介護家族の会に行ってからデイサービスを利用するようになって地域と関わりができてうれしい。

・【若年性認知症のご本人のご家族】

地域の●●さんが、ふらっと出て行ったところを連れて帰ってきてくれたり、外に一緒に連れ出してくれたり助けてくれている。近所の方には大げさには言っていないが、うすうす感じている方はいらっしゃると思う。ゴミ掃除の時にはようございますなど声をかけてくださっていて助かっている。

・【認知症ケアを推進する会】

地域の力は必要。病気なので、認知症の本人は変えられないので周りが変わっていく他ない。介護家族や地域の方が見守り、支える。支えられない時も地域の力が必要だと思う。

以前、「主人が認知症なので見かけたら声かけてください」と近所の人に話しておく、近所の人から「スーパーで見たよ」などと教えてくれるという話を聞き、自分の父の時には同様に、近所の人に私の名刺を配った。すると父のことで近所の人から電話がかかってきたので、やはりオープンにする方が良い場合が多かった。でもオープンにしなくても正解にたどり着くまで時期を待つというのが大事だと思う。遠方の家族がすぐに助けに來れない時には地域の力が必要。でも地域も高齢化しているのが今の課題ではないか。

4) 条例や認知症に関する普及啓発用パンフレット作成についての意見交換

- ・文字数が多いと視認性が下がり、読みたくなる。イラストや大き目の文字が見てもらいやすい。
- ・認知症のある人の、感染症や緊急時の対応などのトピックス
- ・小学生、幼児やお母さんへの教育から、市全体で本質的な取り組みを進めてほしい。
- ・高齢者が増えて医師が減る中で、教育が大切。医療の発展や生活習慣病との関連など、時代とともに変わってくる「知識」を伝えるものとして載せるのがよい。
- ・認知症と伴いあゆむというタイトルがあると、富田林市の認知症の取り組みのパンフレットだとわかる。
- ・認知症に関する医療機関の情報
- ・居場所を求めている人には、居場所の情報
- ・漢字が多いとハードルがあがる。
- ・イラストも柔らかいイメージで自分事にしたら見てもらえると思う。
- ・「あなたに知ってほしい」「市民のみんなに知ってほしい」など、高齢の方だけではないというメッセージ。
- ・若い人にも自分事にしてもらえるように。
- ・認知症があってもなくても、出会いの場の情報。その情報を知り、他の地域でもやってみようと思う人が増えたらいいな。
- ・今ある制度の一覧や相談先の紹介
- ・「認知症と伴いあゆむ笑顔のまち」は本当にいいなと思うので表紙に柔らかく載せたらどうか。
- ・認知症に関する情報
- ・私は「認知症」という字を見るのも怖い。あまり認知症を前面に出さない方がよいと思う。

- ・認知症になるのは嫌という人は多いが、他の病気に比べて「ともに生きていける」病気だと、良い面を説明すると嫌ではなくなるかもしれない。
- ・良いイメージも伝えて、時間はかかるが「認知症になってもいいや」と思えるようになりたい。
- ・タイトル:あれ？ サブタイトル:認知症かもしれない、一緒に考えよう
- ・「認知症」ではなく「物忘れ」とかはどうか。
- ・あれ？と思うような表現でもよいかも。
- ・認知症の診断後、施設に入所するまでの準備を段階的に知りたい。一般人にわかるように。この段階では何をすればよいのか、どんな制度や相談先があるのか、知っていたら楽だよという情報。